

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000753		
法人名	株式会社 ユニマツトそよ風		
事業所名	京都ケアセンターそよ風	3Fユニット	
所在地	京都市西京区大枝東新林町2-13		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	平成27年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.ご本人だけでなくご家族も参加できる行事を行い、毎年の恒例となってきた行事もあり今後さらなる発展をしていけるように努力したい。</p> <p>2.グループホーム専属の看護師を配置し、医療連携体制を強化。必要に応じ専門医の受診も勤めている。</p> <p>3.毎月センター全体の研修に加え、各部署で毎月の会議時に、合わせて研修を行っている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は朝礼で復唱し、グループホーム独自の理念も職員間で考え作成し掲げている。理念を意識しながら、安心して安全な生活ができるような、認知症ケアの向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番の家の登録や、近隣の中学生の福祉体験の受け入れをしている。今後も身近に「できる事を考え交流が持てればと思うが、地域的に自治会が存在しないため、難しいと思う面がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方のグループホーム見学があった際は、認知症に関する専門性のある対応や、センターでの生活や介護対応を説明し、アドバイスなど行う事で、理解が深められるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回開催し、子供110番の家やAED設置案内等、できる範囲で要望に応えるようにしている。フロアーでも会議報告書等を元に行うように努めているが、ご利用者の生活上の事で、直接の向上につながっていない面もあり、今後の課題である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや市町村には、法令その他の質問や依頼を行っている。地域包括ケアシステムを念頭においた取り組みは進んでいない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料を作成し、身体拘束の研修や会議の場で話し合いを行っている。安全上夜間のみフロアー入口の施錠を行っている。センター入り口は施錠されており、フロアー職員、事務所が閉鎖している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記身体拘束と合わせて研修を行っている。特にスピーチロックに関して今年度行っている。各職員に虐待防止に関するアンケートも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在まで左記制度の利用はない。現状定期的な訪問のあるご家族なため、利用につながるケースがない。研修案内はしているが、受講するかは各個人に任せている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に自宅を訪問するなどして、ご利用者やご家族の不安や疑問点を聞き、説明や理解を得ている。入所時は契約書、重要事項説明書を用い説明し、質問にお答えするようにしている。また、介護保険改定や、事業所変更毎に説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置やアンケート等を行い、運営推進会議には、順次出席をお願いしている。出欠表を送る際、出席できない場合は、要望や意見を書く欄を作り、返信して頂くようにしている。アンケート内容に関しては、今後取りまとめ内容を開示する必要がある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や部門長会議等で意見交換を行い、センター内で行える内容の事は行っている。それ以上の事については提案の場が少なかったが、現在支社ごとに協議会を作り、センターの管理者やリーダーなどが参加する機会ができています。今後センター内で出た意見や要望等を取りまとめ、提案の場となる期待がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	以前から比べ人員の確保が出来てきて改善はしているが、十分とは言えないため、今後さらなる改善を図る必要がある。職員の意見は様々で、十分と感じている職員もあれば不十分と思っている職員もあり、今後さらに個々の意見を聞く必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回センターでの全体会議を通し研修が行われている。フロア毎ではスタッフ会議の内、10分程度使用し、研修の時間を確保している。その他法人支社ごとの研修もあり、一部職員参加している。今後新入職員の基本的な介護に関する研修の要望がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全員ではないが、地域密着型サービスに関する外部研修や法人内研修に参加している。ケアマネジャーは普段から他法人担当者と交流している。また、同施設内であるが、全体会議で他部署職員との交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活ができるように、コミュニケーションや、アセスメントツールを使い、情報や要望を元にケアプランを作成し、職員間足並みをそろえた対応ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	質問や要望等に対応している。入所時には希望の処方箋と称し、センターに希望する事等知る機会を作っている。入所後も気軽に話せる雰囲気作り心がけ、来所の際には話をする時間を作り、日々の様子をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向を尊重し、個々に適した対応、支援をしている。知りえる情報はアドバイスさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共有するところは共に暮らしを見守り、介護の必要性があれば支援を行い、支えあう家庭的な雰囲気作り、生活を共にしている事を実感できるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の生活をお伝えし、ご家族からは昔の話を聞くなど、情報を共有するように努めている。ご家族からどのように支えてよいか、難しい面もあると思われ、年間行事へのお誘い、参加を呼びかけ、皆で参加できる機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が来やすい環境を作るように努めている。過去だけでなく、入所後の馴染みの関係や場所も出来てきている場合もあり、毎年の恒例行事となっている事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や思いを把握し、席が近い方同士会話ができるように支援している。場合によってはトラブルになる事もあり、なるべく事前に回避するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHから退所後の行先支援や、在宅に戻られた場合、同事業所の居宅介護支援事業所が担当するなど行っているが、現在該当する事例がない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや表情などからの様子で、ご本人の意向や希望を気付き、その他の情報を合わせ、ケアプランを作成する事で、個別性のあるケアを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴記入用紙を依頼したり、ご本人との会話の中や、ご家族面会時に伺うなどして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から状態を把握し、記録に書きとめ職員間で情報共有している。その情報を元にその方の状態に合わせた事を、一緒に行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の生活の中や、ご家族、主治医、などから情報や、ケース会議で各職員の意見を元に、ケアプランを作成し、実際のケアに生かせるように取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター統一様式があり、記録をして毎日申し送りをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて、柔軟に対応するようにしている。必要性があれば希望に沿うよう対応する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の福祉体験受け入れや、ボランティアの方に来て頂く機会がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関はあるが、入所時に別の病院や、今までのかかりつけ医も含めて検討して頂き、希望に合わせた医療機関となるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専属の看護師を配置しており、主治医との調整役になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時その他病院との連絡の際には、病院相談員を通し調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食べる事が出来なくなった場合、最期をどこで迎えられるか等、早い段階でお聞きするようにしている。重度化や困難ケースに対する課題もあり、取り組んでいく必要がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時のマニュアルは各フロア配布し、スタッフルームにある。救命講習はしばらく行っておらず、現在検討中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の夜間想定避難訓練は、消防署監督の元1回、自主訓練1回の年2回行っている。マニュアル作成している。避難場所等の掲示はしているが、地震等の訓練はできていない。消防からは出張所が近所のため、緊急車両が到着する前に、隊員が走ってくるので、立地的には良いと言われている。水等の備蓄物はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	専門職として意識して業務にあたっている。無遠慮な言動によるトラブルや、個人情報の取り扱いに注意し、職員間で注意しあうようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の考えではなく、ご利用者本位に考え、気持ち、思いを汲み取り、できる事は希望に叶うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活の中での役割や、喜び事を見つけ、できる限り意向に沿うように支援しているが、その日の勤務体制によっては、業務中心になっている事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で身だしなみを整えたり、服装の汚れ等注意するようにしている。季節に合ったものがすぐに出せるようにもしている。また、訪問理美容の利用を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きな物を聞いてメニューを作ったり、行事食の提供等行っている。また、ご自身の力が発揮されるよう、適切な援助の量を見極め、台所仕事等行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量、排泄記録を行っている。食事は状態に合わせ、粥やキザミ食にするなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の意向や状態によって、必ずしも毎食行っていない方もある。その方の状態に応じ、歯科衛生士による口腔ケアを受けたり、歯科往診が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	最期までトイレで排泄を心掛けている。排泄チェックを行う事で、個々に合わせた適切な誘導を行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品やオリゴ糖、食物繊維が多い野菜や食品を取り入れている。また、散歩に出かけるなど、運動の機会を作り、必要な場合は医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方もあり、過去の生活歴で嫌いになった事は何か、再確認している。また、チームプレイで入って頂けるように努力している。時間の面で業務都合となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居地内の安全や清潔面、採光や空調などに注意している。ご本人の状態によって、昼寝等の休息時間を作るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成し、内服確認を行っている。受診時に状態を医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎のイベントや外出、誕生日会にはプレゼントを用意する等している。イベント時はアルコールの提供もしている。また、達成感を味わえるように、得意とされるような事(エレク-ン等)を取り入れる事もある。男性は邪魔くさいと言われる事も多く、興味のある事を見つけていくなど、工夫が必要である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩はできる限り出かけるようにし、ご家族にも呼びかけている。季節の外出も人員等の問題でいけない時もあるが、最近では柿狩りに出かけるなど、できる限り行くように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は基本ご家族や、センターでお預り金として管理している。買い物の際出来る方は、支払いの場面で行って頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	中々手紙の支援までできていないが、会議で季節のお手紙を出せるように決定した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示物、リビングやバルコニーに季節の花を置くなど季節感を出している。最近では散歩に出かけた際、紅葉した落ちなど持ち帰り飾っている。生活感に結び付いた環境調整を行い、アロマやヒーリングミュージック等も使用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室を行き来したり、共用空間にソファを設置するなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物(家具や写真等)を持ってきて頂くようにお伝えしている。それぞれその人らしい生活空間が保てるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	元々の設備(手すり、案内表示)以外に、手すりの増設や、わかりやすい表示などに行っている場所もある。環境だけでなく、わかりやすく、個々にあった言葉かけを実践している。		